

# 給食だより



## 子どもの「食べたい気持ち」を引き出す6つの工夫

2025.10.31 納内保育園

冬が近づく中、子どもたちは寒さに負けず、元気に走り回っています。さて、「食欲の秋」と言われる一方で、子どもの「食べム」や「遊び食べ」に悩むというお声もよく耳にします。「しっかり食べて、元気に冬を越してほしい」と願うのは、すべての方の共通の願いですね。そこで今回は、子どもの「食べる意欲」を自然に引き出すためのヒントを特集します。特別なことをしなくても、毎日の生活の中で少し意識するだけで、食事の時間がもっと楽しくなるかもしれません。

### ★すべての土台「お腹がすく」リズムをつくろう

食べる意欲の原点は、何といっても「お腹がすいた！」という感覚です。その感覚を育むためには、生活リズムを整えることが一番の近道です。

#### <早寝・早起き・朝ごはん>

朝、太陽の光を浴びると、体のリズムを整えるスイッチが入ります。脳が目覚め、胃腸が動き出し、朝ごはんを「おいしい」と感じられるようになります。夜更かしをすると、このリズムが乱れて朝の食欲不振につながる場合があります。

#### <日中は思いっきり体を動かそう！>

当たり前のことのようにですが、体をたくさん動かしてエネルギーを使えば、自然とお腹はすいてきます。お天気の良い日は公園へ行ったり、お家の中でも歌に合わせてダンスをしたり、日中の活動量を増やすことが、何よりのごちそうになります。

#### <間食は時間と量を決めて>

おやつ（間食）は、子どもにとって食事だけでは足りない栄養やエネルギーを補うための大切な「4回目の食事」です。しかし、だらだらと食べ続けたり、ごはんの直前に食べたりすると、ごはんの時間にお腹がすかなくなってしまう。「15時になったらおやつにしようね」と時間を決め、量を決めて与えるようにしましょう。

### ★食事に集中できる「環境」を整えましょう

気が散りやすい子どもにとって「食事をする環境づくり」はとても大切です。

| ポイント       | 具体的な工夫                                                              |
|------------|---------------------------------------------------------------------|
| 食事場所と道具    | いつも同じ場所（食卓）に、お気に入りの食器を用意することで、「ここはごはんを食べる場所」という意識が芽生えます。            |
| 誘惑をシャットアウト | 食事時は、テレビや動画は消しましょう。おもちゃは子どもの視界に入らない場所に片付けることで、食事への集中力が高まります。        |
| 正しい姿勢で     | 足が床や補助板にしっかりとつき、ひじがテーブルにつくくらいの高さが理想です。姿勢が安定すると、しっかり噛むことができ、消化も助けます。 |
| 穏やかな雰囲気    | 大人のイライラは子どもに伝染します。忙しい時間ですが、保護者の方も深呼吸をして、楽しい気持ちで食卓につけるといいですね。        |



### ★「さあ、ごはん！」気持ちを切り替えるスイッチ

遊びに夢中になっている子どもにとって、食事の時間に気持ちを切り替えるのは難しいものです。食事の前に一連の「お決まりの行動（ルーティン）」をつくることで、スムーズに食事へと誘導できます。



### ★「食べさせなきゃ」から「一緒に楽しもう」へ。温かい見守りと声かけ

食事の大人の関わり方は、子どもの食べる意欲に最も大きく影響します。

#### ・共感と肯定の言葉を

「早く食べなさい」「こぼさないで」という命令や禁止の言葉は、子どもを萎縮させてしまいます。それよりも、「もぐもぐ上手だね」「にんじん、赤くてきれいだね」「お父さんも同じお魚だよ。おいしいね」といった、共感や肯定の言葉を大切にしましょう。

#### ・「自分で食べたい」を尊重する

手づかみ食べや、スプーン・フォークを自分で使いたがるのは、自立心と意欲の表れです。汚されると大変ですが、子どもの「やりたい！」という気持ちを温かく見守ってあげましょう。床に新聞紙やビニールシートを敷いたり、汚れても良いスモックを着せたりと、汚れても大人がイライラしない工夫をするのがおすすめです。

#### ・食べないことを責めない

大人にも食欲がない日があるように、子どもにも食べたくない日があります。「一口でも食べられてえらかったね」「今日はそういう気分じゃなかったんだね」と、食べないことを受け止める姿勢も大切です。無理強い、食事そのものを嫌いになるきっかけになってしまいます。

### ★子どもの「今」に合わせた量と形態

#### 「完食できた！」の達成感を

「ぜんぶ食べられた！」という達成感が自信になり、次の意欲につながります。「おかわり、いる？」と聞かれて「いる！」と答えられるのも、子どもにとってはうれしいものです。

#### 発達に合った調理形態で！

うまく噛めない、飲み込めないことが原因で、食べるのを嫌がる場合があります。子どもの口の発達に合わせて、食材の硬さ、食材の硬時々見直してみましょう。



### ★食べ物との距離を縮める体験

お手伝いや栽培などを通して食べ物そのものに関わる体験は、子どもたちの「これは何だろう？」「食べてみたい！」という興味を強く刺激します。

|     |                                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 手伝い | レタスをちぎる、きのこを割く、お米を研ぐ（見守りながら）など、簡単なことからお願いしてみましょう。                                     |
| 栽培  | ベランダのプランターで、ミニトマトやスナップエンドウ、ハーブなどを育ててみませんか。水をあげ、成長を見守り、収穫をして食べるという一連の体験は、食べ物への愛着を育みます。 |